

たぐろ

TAKUSUI
No. 692

6

June. 2014

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



トライやる・ウィーク (姫路市)

瀬戸内海環境再生法 国会へ提出 各団体で総会が開催

《今月の海上安全標語》～ 怖いもの～

海の上は、陸上と違った怖いものがいっぱい！ これらが近くなったら、気をつけましょう！

霧と風 高波・カミナリ でかい船 では、今月も安全操業で！

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

（「ようこそ」とは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる）

合併と分権の先に

一般財団法人 兵庫県水産振興基金 参与 **野口 一行**



もう10年前になりますが、平成16年4月から2年間、私は淡路県民局で市町振興の仕事をしました。当時は平成の大合併といわれた市町村合併が最盛期で、淡路でも1市10町が今の3市になる時期でした。平成の合併を押し進めたのは地方交付税カットですから、大都市周辺の財政的に余裕のある団体は合併しなかったのですが、全国的には市町村数は3,132（平成16年3月）から1,727（22年3月）になっています。

町村が1,500ほど減り、100ぐらいの市が新しくできました。都道府県は基本的に有している権限は同じで、人口60万人の鳥取県も890万人の大阪府も同じ仕事を処理しています。これに対して、市は人口規模によって政令市、中核市、特例市と一般市に区分され、有している権限に大きな差があります。

地方行政に関しては、基礎自治体優先の原則があり、住民により近い市町が担うのが望ましいとの考えから、担える能力のある大規模市への権限移譲が進められてきました。権限が欲しいなら大きくなりなさいということですが、この権限移譲も要因になって、市町村間における行政サービス提供能力は相当大きな格差が生じています。財政破綻した北海道夕張市は極端な例としても、もはやどこに住んでも負担とサービスがほぼ同じというのはいくらもありません。

中小の市町は近隣と連携してサービスの充実を図るでしょうが、大都市に比べ限界があります。元々行政能力が高いレベルにあった神戸市は、1995年の阪神・淡路大震災からの復興過程で、つまり住民からの膨大な要求を適切に処理することを通じて、その能力が一段と強化されたように思います。震災から立ち直り、福祉・介護・医療などの人的サービスだけでなく、生活に必要な公の施設や公営事業の充実した大変住みやすい街になりました。

私もあと数年で前期高齢者の仲間入りです。高校卒業後の大半を神戸市で過ごしてきた私にとって、神戸が最も暮らしやすい所であり、これからも手厚い行政サービスを受受できることを期待している次第です。

ただし、高齢者優遇の予算配分と税制を今後も続けるのは困難だということは承知していますので、行政に期待するだけでなく、増え続ける高齢者の一人として、地域のために何ができるか真剣に考えたいと思っています。

CONTENTS

No.692 June, 2014

- 2 ようこそ
- 3 瀬戸内法、国会に改正法案提出へ
- 4 流通科学大学との消費流通検討会を開催
- 5 LOVE SEAメニューも大好評
大輪田塾 第10期生 募集しています
- 6 トライやる・ウィークで漁業体験
- 7 ガザミふやそう会 会員募集
- 8 (一社)淡路水交会 通常総会
摂津播磨地区漁協青壮年部連合会 通常総会
- 9 淡路地区漁協女性部連合会 通常総会
淡路地区漁協青壮年部連合会 総会開催
- 10 西播磨の加工品で「地域の元気づくり」に繋げよう
海難事故をなくそう
- 11 兵庫JCC通信
- 12 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

「トライやる・ウィーク」(姫路市)

中学生が働く現場を見て、自ら体験することで様々な事を学ぼうという取り組みである「トライやる・ウィーク」。兵庫県で始まったこの取り組みは、毎年、多くの企業などの協力を得て、県下各地で実施されています。

写真はJF姫路市中部支所広畑出張所の前を流れる夢前川河口で、姫路市立灘中学校の生徒たちと同JF 福井佐敏さんが漁業体験前に撮った一枚です。

播磨臨海工業地域と呼ばれる中に、昔から漁業が営まれていることは、地元に住んでいても知る機会が少ないようです。小型底曳網漁業やアナゴかご漁などの体験をとおり、漁業への理解や、海を愛する心に繋がってほしいと思います。

瀬戸内法、国会に改正法案提出へ

JF兵庫漁連

5月22日（木）、自由民主党国会議員22名をはじめ、環境省、水産庁や瀬戸内海関係漁連・漁協等の関係者が出席する「瀬戸内海再生議員連盟」（塩崎 恭久会長）の総会が東京の自民党本部において開催され、瀬戸内海環境保全特別措置法（瀬戸内法）の改正法案が、今後、国会に提出される見込み

となりました。

はじめに、塩崎会長から「環境保全とは何か？という原点に立ち返り、関係省庁同士の議論をしていただいた。改正法案は速やかに国会を通過させて、瀬戸内海の再生を図っていきたい。」と挨拶があり、その後、参議院法制局が改正法案の概要について説明

をしました。



改正案では、基本理念が新設され、瀬戸内海は「国民にとって貴重な漁業資源の宝庫」であることや、豊かな海は美しい景観とともに生物の多様性・生産性が確保され、多面的価値・機能が発揮された海（里海）など定義されるとともに、施策の在り方にも豊かな海へ視点が広がります。40年余、水質規制措置で「水清くきれいな海」を目指していたこれまでの環境施策に、里海づくりを含め藻場・干潟など沿岸域の良好な環境創出など豊かな海へ必要な事業を総合的かつ計画的に推進すると条文に盛り込まれたことは大きな進展です。具体的施策では①漂流・海底ゴミの除去、②有害動

植物の除去、③水産動物の種苗の放流、水産動植物の繁殖地の保護・整備など施策が追加されています。一方、窒素・リンの削減は、現状でも水質汚濁防止法で総量規制されているものなので、現行法の富栄養化関連条項が削除されるこのことですが、別法の範疇でこれまで通りに総量規制の在り方が検討されるとするならば、改正法との整合をどう図られるか、今後の動向に注視が必要です。

窒素・リンの在り方は漁業存続の生命線に関わる関心事であり、議員連盟プロジェクトチームでも相当深く議論いただいたそうですが、栄養塩類の減少がノリ養殖に及ぼす影響は理解されるも、魚類資源との因果関係は根拠不足だとのことで、まずは法案の早期成立を優先し、法案には「瀬戸内海で栄養塩類が水産資源に与える影響について調査研究を進め、法施行後5年を目的に、瀬戸内海における栄養塩類の管理の在り方を検討し、その結果で所要の措置を講ずる」と検討条項を附則に加えることで省庁と調整したとの経緯もあります。

出席の議員から、現行法を所管する環境省と、改正法に基づく事業実施に深く関わる水産庁や国交省との連携に関して意見が相次ぎ「省庁ごとにミッションは異なるが、3省庁が同じ方向に向けて仕事をすることが重要」との



挨拶に立つ塩崎会長

認識で一致しました。

何れにしても、漁業者が有明法を参考に瀬戸内海の再生運動を始動して10年余。議員連盟の皆さんや瀬戸内海環境保全知事市長会議の議長の井戸知事をはじめ関係各位のご理解で漸くここまで来たことは感謝の極みです。他方、今回の法改正はスタートであり、真に豊かな瀬戸内海の再生に道程は長いですが、基本理念に基づく基本計画の策定や新設の府県計画に係る湾灘協議会等々、まだまだ様々な場面で漁業者の声は必要であり熱意を持続することが求められます。

流通科学大学との消費流通検討会を開催 ～学生らとタコ等加工品を試食し意見交換～

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会



摂津播磨地区漁協青壮年部連合会は、漁業者の立場から出来る魚食普及活動として、神戸市の流通科学大学を訪れ、学生らと県産水産物の消費流通拡大に向けた意見交換をし、学生と共同で新商品開発を目指す消費流通検討会を開催しました。

5月15日(木)、同大学の食堂で商学部

後藤こず恵准教授とゼミ生と、同漁青連の部員ら約30人が一同に会し懇談しました。まず、ゼミ生らは、事前に学生を対象としてインターネットを使ったアンケートを行っており、「馴染みのある水産物は好まれているようだ、学生生活を支えるのに必要な栄養が摂取できていない」との結果を発表しました。

続いて、同漁青連が用意したタコやカキの加工品、チリメン、焼きアナゴ、ノリなどを、同部員らはゼミ生と一緒に試食をしつつ、「ノリには等級があり、味や色が違う」など漁業や魚の話をしました。このあとの質疑応答では「魚種によって網を変えるのか」、「魚はなれといわれる現状についてどのように思っているのか」といった質問に、同部員らが丁寧に答えるなど活発な意見交換が行われました。



兵庫県の水産物の味を知ってもらいました

最後に後藤准教授は「今日の成果をゼミ内でまとめ、コンペ等を行って新商品の開発、試験販売まで行いたい」と纏められました。

今回の取り組みは、昨年から関西学院大学の生協の協力を得て、学食で「LOVE SEA井」の提供を行っていることを聞いた流通科学大学の担当者から「是非、やってみよう」と要望を受けて実現したものです。

当漁青連は、今後もJF兵庫漁連の各部署と密に連携を取りながら、消費流通、魚食普及、食育と多分野にわたり、様々な大学と同様の検討会を開催していく予定です。



漁業や魚のさまざまな話について意見が交わされました

LOVE SEA 丼から進化! LOVE SEA メニューも大好評

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会は、昨年より関西学院大学生活協同組合の協力を得て、学内の食堂で期間限定「LOVE SEA 丼」をこれまで3回販売してきました。

第4弾となる5月27日(火)～29日(木)は、丼(どんぶり)ではない新しい形「LOVE SEA 企画」として1日100食の限定販売を行いました。今回は、JF兵庫漁連水産加工センター協力のもと、同センターで加工した「アジの開き」「舌ヒラメ(中骨除去済)」「クロダイフレーク」「ネプト唐揚げ用」を使用し、まず「LOVE SEA セット」として「シタビラメのフライ」、「開きアジの天ぷら」、「フレークを入れた「鯛飯」、味噌汁の定食を販売しました。また、より多くの学生の皆さんに味わってもらおうと、単品で購入できるグラムバイキング(1

9あたり1・34円で販売)を実施し、「アジの南蛮漬」と「ネプトの唐揚げ甘酢ソース」の2種類も販売しました。

これまでと違う提案でしたが、「大好評」という結果を受け、今後の企画に大いに参考にしました。漁青連では、今後も兵庫の魚を楽しんでもらえる企画を同生協と一緒に提案し、継続していきたいと思いません。



食堂に飾られたポスター



LOVE SEAセットは、鯛飯Sサイズ390円、Mサイズ450円



▶グラムバイキングも好評でした
(①ネプトの唐揚げ甘酢ソース、②開きアジの天ぷら)



大輪田塾 第10期生 募集しています。

平成17年に開講された「大輪田塾」。めまぐるしく変化する社会・経済情勢に対応し、将来にはJF組織を支えていける人材育成を目的に始まり、すでに卒業生は地域のリーダーとして活躍されています。講義は、県・系統団体をはじめ多彩な講師陣による月1回の座学を中心に、外部研修や事務局が適当と認めた会議等も聴講できるといった幅広い知識の習得が可能なカリキュラムを組んでいます。

この「大輪田塾」では現在、10月に入塾される第10期生を募集しています。皆様のご応募をお待ちしております。

◎応募資格

- ①原則として、漁業歴10年以上かつ45歳未満
- ②原則として、JF関係役員歴10年以上かつ45歳未満

のいずれかに該当する者で、所属する組織代表者の推薦を受けた者

◎在籍年限

原則2年(最長3年)



トラフグ養殖見学(県内研修)



外傷への対応(通常講座)

募集は8月末に締切、その後、面接を行い運営委員会の選考を経て、10月に入塾式を行います。(詳しい募集要領は各JF・系統団体宛に通知しております。)

問合せ先(事務局) (一財)兵庫県水産振興基金

〒673-0883 明石市中崎1丁目2-3 TEL 078-919-1331

トライやる・ウィークで漁業体験 ～JF姫路市福井佐敏さんが協力～

(二財)兵庫県水産振興基金

毎年、6月頃に行われる「トライやる・ウィーク」は、中学生が働く現場を見て、体験することで様々なことを学ぼうとする取り組みで、多くの企業などが協力をし、県内の各JFでも受け入れたJF姫路市福井佐敏さん

（同JF代表理事 大輪田塾5期生）を取材しました。

姫路市立灘中学校から要請を受けた福井さんは、同JF中部支所広畑出張所の前で6月2日（月）～6日（金）の間、多様なイベントを用意しました。初日の小型底曳網漁業見学から始まり、アナゴかこの準備や投入・引き上げのほか、姫路市立栽培センターの見学、福井さんによる姫路の漁業について講演を聞き、参加した女子生徒7名は様々な体験とおし漁業への理解を深めました。また、使わなくなった浮標をくり抜き、セメントで重しをつけたものに、好きな言葉などを生徒ら

が書き込んでいる。オリジナルタコつぼ制作では楽しそうにペンを走らせていました。後日、仕掛けて入ったタコはプレゼントするそうです。

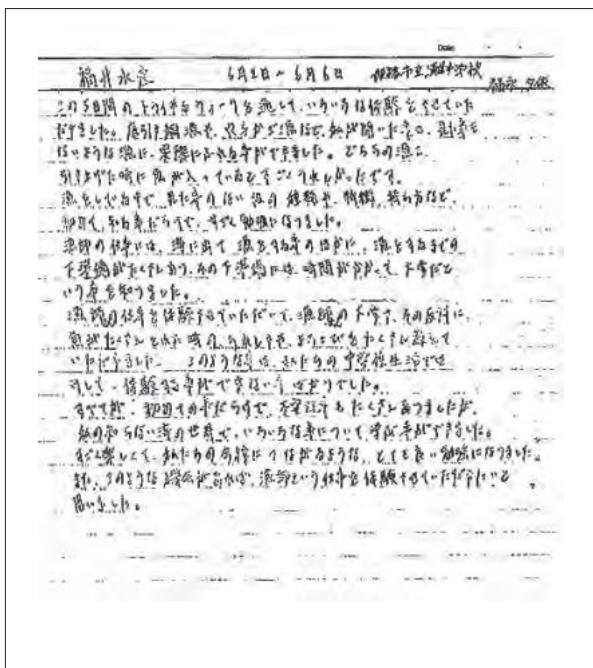
む、オリジナルタコつぼ制作や、自分たちで引き上げた魚でバーベキューを楽しむなどしました。受け入れを終えて、福井さんは「昼はトライやるウィークの対応、夜は操業と慌ただしかったが、生徒らは準備などをよく手伝ってくれて助かった。自分としても良い体験が出来た」と話され、生徒が船酔いするなどのハプニングもあったようですが、無事に終了できたという安堵とともに、漁業への理解を深めてもらえた手ごたえを感じておられました。



た女子生徒7名は様々な体験とおし漁業への理解を深めました。また、使わなくなった浮標をくり抜き、セメントで重しをつけたものに、好きな言葉などを生徒らが書き込んでいる。



オリジナルタコつぼ制作では楽しそうにペンを走らせていました。後日、仕掛けて入ったタコはプレゼントするそうです。



寄せられた感想文
漁に出るまでの準備に大変さや、魚が取れた喜びが綴られていました。



貴重な体験を終えてVサイン

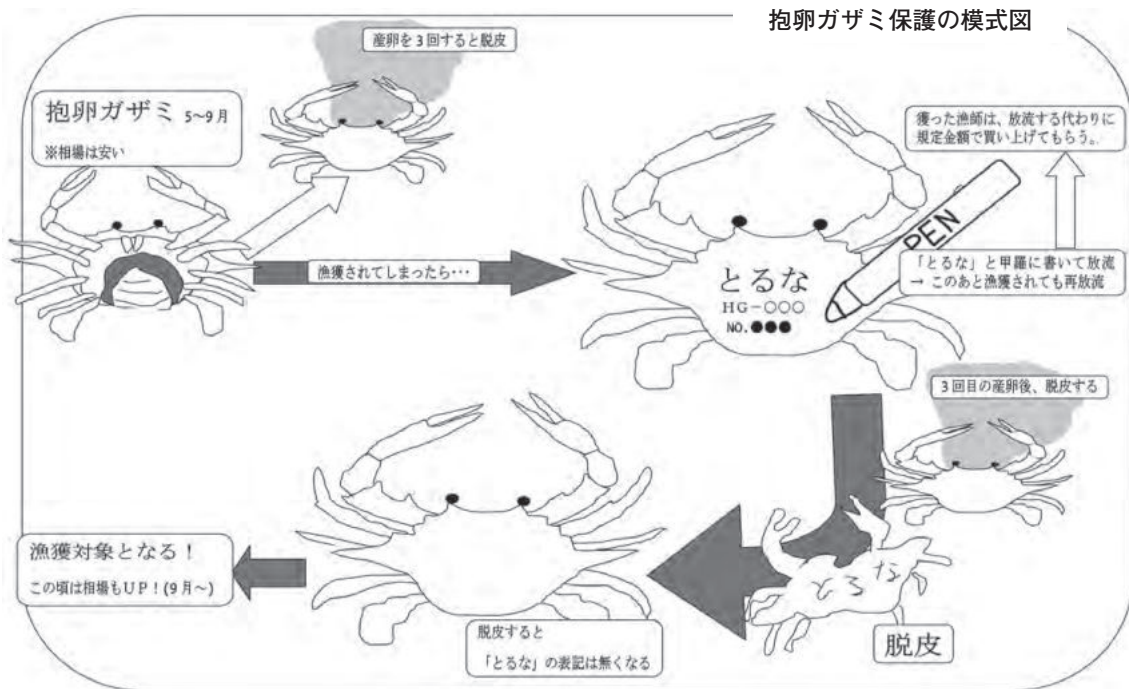
ガザミふやそう会 会員募集!!

昭和61年から始まった「ガザミふやそう会」(大西 正起会長)の取り組みは、県内漁業者、JF、系統団体のほか、一般市民や他県の水産関係者からの会費によって運営されています。

自然の力によってガザミ資源を増強しようというこの取り組みは他県でも実践され、大きな輪となって広がっています。

同会では平成26年度ガザミふやそう会の会員を募集しています。

“兵庫発”の取り組みに、是非ご賛同ください。



※抱卵ガザミの保護期間は毎年5月1日~9月30日までで、対象海域は大阪湾および播磨灘とします。



平成26年度 ポスター

ガザミふやそう会では抱卵ガザミのほか、下記のガザミを再放流しています。(期間、時期を問わず)

- ・甲幅長12センチ以下のガザミ
- ・脱皮直後の柔らか甲羅ガザミ

また、同会の活動は全国的にも高く評価されています。

- ・第32回全国豊かな海づくり大会美ら海沖縄大会 資源管理型漁業部門 農林水産大臣賞 受賞

会費・入会に関して

- ・会費は1,000円/年です。
- ・会員の証として、オリジナルQUOカード(500円分)をお渡しします。
- ・詳しくはJF兵庫漁連ホームページをご覧ください。



【事務局】

〒675-0163 加古郡播磨町古宮字堀坪1-4 JF兵庫漁連のり流通センター内
JF兵庫漁連のり海藻事業本部資材部 ガザミふやそう会事務局
TEL: 078-942-9272 FAX: 078-942-9340

第3回通常総会

確固たる歴史と団結を誇りに新たな船出

新会長に東根 壽氏

(一社)淡路水交会

一般社団法人淡路水交会（前田吉計会長・17会員）は6月3日、洲本市内のホテルで第3回通常総会を開き、平成25年度事業報告及び貸借対照表、正味財産増減計算書など決算報告を行い、原案が可決承認されました。総会には、会員漁協の全組合長をはじめ行政機関、系統団体の来賓ら40名が出席しました。開会で前田会長は出席者に謝意を述べたあと「霞がかかったままの景気が続き、漁業環境は依然厳しい。最近、漁獲物をみると海が変わってきていることを実感させられる。これからは既成概念にとらわれず、漁法の工夫や市場への取り組みを変えるなど色々やってみることが大事だ。厳しい時代こそ皆さんの結束を願う」と挨拶。続いて来賓を代表し、県洲本農林水産事務所 藤澤 崇夫所長、JF兵庫信漁連 山田 峰人会長が祝辞を述べられた。議事は1議案だけで前田会長が議長となり異議無く承認され閉会となりました。

このあと、前田会長から「今日で会長を退任することになった。戦中戦後の厳しい食糧難の時代にあっても阿万で漁師を続けてきたお陰で今日がある。伝統ある淡路水交会の会長という職務を通じてたくさんの方々に世話になった。人との出会いこそ大切であり、自分の大きな財産と思う。改めて、永年にわたり私を支

えていただいた皆さんに、心から感謝申し上げます」と時々言葉を詰まらせながら辞任の挨拶があり、出席者から永年の労に感謝を込め万雷の拍手が贈られました。また、新会長に就任されたJF淡路島岩屋 東根 壽組合長からは「前田会長の立派なご功績に心から敬意を表するとともに、様々お世話になったことに深く感謝申し上げます」と前置きされ「長い歴史と団結を誇りとする淡路水交会の会長を引き継ぎ、その責任の重さに身が引き締まる思い。難問山積の今日、皆さんのご協力を頂きながら全力で役割を果たしていきたい」と決意の挨拶がありました。



前田会長の挨拶

新会長に大西 正起氏 (JF伊保)が就任 ～「LOVE SEA井」など魚食普及を積極的に展開～

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会

総会では、平成25年度事業報告及び収支決算、平成26年度事業計画、「ガザミふやそう会」の運営・計画などの案件が審議され、原案通り全て承認されました。また、任期満了に伴い行われた役員改選では、大西 正起氏 (JF伊保) が新たに会長に選任され、「大角会長の方針を引き継いで、積極的に活動を展開したい」と就任挨拶をされました。

漁業を取り巻く状況は厳しいですが、昨年度から行っている県産水産物を使った「LOVE SEA 井」の取り組みを継続、拡大する方向が決まり、今後の同会の活躍が期待されています。

5月24日(土)、姫路市の漁友会館において、摂津播磨地区漁協青壮年部連合会(大角 生馬会長)の平成26年度通常総会が開催され、会員、系統団体、行政などの関係者約40名が集まりました。

総会開会にあたり大角会長(JF坊勢)が挨拶、続いて来賓出席頂いた(一社)播磨漁友会 井上 仁 会長(JF岩見)から、これまで同青壮年部を牽引してきた大角会長に対し漁友会として謝意を示され「漁業は厳しい状況ではあるが、大角会長が播いた種を生かして頑張ってもらいたい」と挨拶されました。



挨拶に立つ大角会長



挨拶をする大西新会長

平成26年度 淡路地区漁協女性部連合会通常総会・研修会

淡路地区漁協女性部連合会

5月24日(土)、淡路水産センターにて、平成26年度淡路地区漁協女性部連合会通常総会が開催されました。

11会員のうち、11会員20名と県洲本農林水産振興事務所 藤澤 崇夫所長(一社) 淡路水交会 前田 吉計会長、JF 兵庫漁連 田中 久善広報部次長はじめ来賓11名の出席のもと、平成25年度事業報告及び収支決算、同26年度事業計画及び収支予算が承認され、滞りなく終了しました。

総会の後、兵庫県信用漁業協同組合連合会 黒田 俊文参事を講師に迎え、「お母ちゃん頑張つてな part2」をテーマに、最近の漁業を取り巻く問題を、黒田参事ならではの語り口で、明るくお話して頂きました。

TPPとはマスコミでは農業しか関係無いかのように伝えられているが、漁業にも深く関わってくるというお話や、そもそもTPPとは?という、基本的な説明も掘り下げて聞くことが出来ました。後半は淡路島で在職経験のある黒田参事



黒田参事の講演

による淡路島の方言講座もあり、普段淡路島で生活をしていても解読できない、島内の方言の違いを楽しく学ぶことも出来ました。

淡路島では、10年前に比べて漁師の数や女性部員の数も半数以下にまで落ち込んでしまっているという厳しい現状ですが、漁師のお父ちゃんを支えるのは浜のかあちゃんだ!という母ちゃん達の底力に尊敬・期待を込めて「お母ちゃん頑張つてな」という題名の講演をして頂き、参加した部員は熱心に耳を傾けました。

淡路地区漁協青壮年部連合会 総会開催 役員改選で新会長に山崎 大輔氏就任

淡路地区漁協青壮年部連合会

平成26年5月30日(金) 洲本市内のホテルにおいて、淡路地区漁協青壮年部連合会(17会員 部員計

269名)の平成26年度通常総会が開催されました。議事は山口 真臣 副会長(JF 仮屋青壮年部)を議長に選出し進められ、平成25年度の事業報告、平成26年度事業計画などの議案が審議・承認されました。新年度事業計画として、栽培漁業・資源管理型漁業の推進、環境保全への取り組み、「淡路の魚」のブランド化など7つの重点事項を実施することが確認されました。最後に、任期満了に伴う役員改選が行われ、山崎 大輔氏(若屋はや潮会)が新会長に就任されました。



淡路地区漁青連総会の模様

総会終了後には、兵庫県淡路県民局県民交流室長 西川 嘉彦氏より「はたらくカタチ研究島く島から生み出す新しいなりわい」と題して淡路島産農水産物の六次産業化およびブランド化に係る取組みについて講演をして頂き、参加者は熱心に聴き入っていました。

西播磨の加工品で「地域の元気づくり」に繋げよう 「西播磨フードセレクション 2014」募集中!!

兵庫県西播磨県民局では、西播磨地域の個性ある加工食品の中から優れた食品を選定し、“地域の元気づくり”に繋げるために「西播磨フードセレクション 2014」を開催します。

応募資格は、西播磨地域（相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、太子町、上郡町、佐用町）の食品製造者（法人含む）で、対象となる食品は、兵庫県産農林水産物を主原材料に使用し、西播磨地域で製造しており、その食品ならではの個性・特徴がある、食品衛生法等に基づき、製造許可を得ている施設で生産されたものです。

グランプリに輝いた食品には賞状、10万円相当の商品などのほか、“モンドセレクション”チャレンジ権が贈られます。

応募期間は平成26年7月1日（火）～7月31日（木）まで。

応募の条件・方法など詳しくは、兵庫県西播磨県民局ホームページをご覧ください。

【お問合せ先】 **西播磨フードセレクション実行委員会事務局**
(西播磨県民局光都農林水産振興事務所農政振興第1課)

TEL: 0791-58-2194 担当: 小河・下野

海難事故をなくそう!

ライフジャケットを 着用しよう!

来月には全国海難防止強調運動が始まります。
見張りの徹底や出向前点検のほか、ライフジャケットを必ず着用するようにしましょう



固型式ライフジャケット
モデル: 坊勢漁業協同
組合理事
竹中 太作さん
(大輪田塾9期生)

～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか?

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※ライフジャケットでは
ありませんので、
一人乗りの漁船の
場合、ライフジャ
ケットを着用してく
ださい。



浮きます!

モデル: 兵庫県水産課漁政班組合指導担当
主査 魚住 香織さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFか**JF兵庫漁連資材部(078-942-9272)**までお問い合わせください

農高生が実習販売 夏野菜苗物フェア

JAハリマの農産物直売所「食彩館 伊和の里」では、夏野菜苗物フェアをゴールデンウィーク期間中の5月3日に開催し、県立播磨農業高校の生徒が授業の一環として、実習栽培した夏野菜の苗を直接販売しました。

同直売所では、これまでも同校生徒が実習栽培した野菜や花の苗を販売してきました。昨年も同時期に生徒自身が販売するフェアを開いたところ、品質も良く農家からも好評だったことから今年も実施しました。農高生7人はナスやトマト、キュウリ、スイートコーンなどの他、花苗や切り花、卵に加え、今回は農高オリジナルのタイ風チキンカレーや卵かけごはんセットも販売しました。野菜苗は市価より格安とあって、開店前から多くの買い物客が列をつくりました。販売は人数制限を行う賑わいとなり、持ち込んだ苗6000本を完売しました。

同直売所では、今後も農家のニーズに合わせて、季節にあった野菜苗の販売を予定しています。



大勢の買い物客でにぎわった夏野菜苗物フェア



接客にあたる農高生

教訓を学ぶ、危険を知る

～「阪神淡路20年-1.17は忘れない～」

ひょうご安全の日推進県民会議 総会～報告

4月17日（木）、兵庫県民会館にて「阪神淡路20年-1.17は忘れない～」ひょうご安全の日推進県民会議の総会が行われ、約200人が集い、推進構成団体のひとつである兵庫県生協連事務局も参加しました。

兵庫県では、阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承するとともに、いつまでも忘れることなく、安全で安心な社会づくりを期する日として1月17日を「ひょうご安全の日」と定め、県民の参画のもと、さまざまな事業に取り組んでいます。

基調スピーチでは、ひょうご安全の日推進県民会議 会長 井戸 敏三兵庫県知事が「阪神淡路20年-1.17は忘れない～」をテーマに、『伝える』『備える』『活かす』のベースには、『忘れない』があるが、『忘れない』だけでは伝えきれないものがある。今までの制度の整備と、これからの対策の発信。“減災の視点”を持つことが大切である」と話されました。

続いて室崎 益輝兵庫県立大学防災教育センター長・（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長が「災害への備えとしての4つの目標～耐震化・室内安全・備蓄・避難～」と題して講演。「“悲観的に想定し、楽観的に準備する”。絶望的になるのではなく、たとえどんなことが起きても道筋を見つけ、命を守るいろいろなケースを考える。教訓を学ぶことで危険を知る。阪神淡路大震災の教訓だけにとらわれず、次に起こりうる災害のリスクを学ぶことがとても大切なこと」と話されました。その後、ひょうご安全の日推進県民会議事務局からは、毎月17日に定められた「減災活動の日」の「①どんな地震でも命を失うことのない住宅の耐震化②タンスや冷蔵庫などの転倒によって負傷することのない室内安全対策③水や食料、電気やガスが途絶えても1週間生活できる備蓄物資の確保④家族間の連絡方法や避難所・避難経路の確認などの避難対策」の4項目を目標に掲げ、今年一年間、県内各地でのイベント時の「減災キャンペーン」実施への呼びかけが行われました。





旬に想う

写真と文
遊方子さんしょう わさび
山椒と山葵

◆サンシヨウは『魏志倭人伝』に「椒」の字で出てくる日本古来の香辛料である。爽やかな芳香とピリツとした辛味が魅力のミカン科の落葉低木。刺のある犬山椒や野山椒は各地に自生しているが、栽培されるのは刺の無い「朝倉山椒」で、花山椒や実山椒として利用する。サンシヨウの木は乾燥を嫌う癖に、水捌けの良い所を好む。根が非常に繊細なため、ストレスや刺激など環境の変化に実に弱く、非常にデリケートな性質だという。生育不良で枯れる事が多いため、植付け場所の選定が大切で、弱酸性土壌で傾斜地が最適と手引きにある。

◆サンシヨウは若葉を薬味に使ったり、木の芽和えや田楽味噌にその辛みと香りを活かしている。樹皮にも辛み成分があり、外皮を取り去った甘皮を細かく刻んで佃煮加工して利用する。乾した果実が七味唐辛子に混ぜられて、噛むと香りが口一杯に広がる。「山椒は小粒でヒリリと辛い」のである。山椒の爽快な香りもいいが、ワサビのツーンと来る強い刺激性も独特のものだ。ちよつと涙しつつ寿司を頬張る味は格別で、食欲不振も倦怠感も吹っ飛んでしまう。強烈な刺激味が特徴のワサビは、アブラナ科の多年草で日本特産品なのである。

◆沢ワサビは、山間の湧水や清水の流れる渓流で栽培される。古くから自生品を薬草としたらしく、飛鳥京の遺構から出土の木簡に「委佐俾」とあり、薬味や香辛料にしていたようだ。室町時代中期に海水魚が食べられ始め、生魚にワサビを添えていたとある。この頃、既に抗菌作用に注目している。あの辛みは植物本体が持っている害虫や病原体への防御と考えられ、擦りおろす事で発生する。この抗菌作用の研究は、抗カビ製品に実用化され食品界では重宝しており、寿司や刺し身、蕎麦の薬味に欠かせられぬ。日本独自の旨い使い方である。

◆粉ワサビ／練りワサビは、ワサビ味を身近に楽しめる商品だが、多くはセイヨウワサビ（ホースラディッシュ）の加工品である。最近、青みと香気を重視し沢ワサビ添加の製品が多く味も良くなったが、その表示の仕方に迷わされる。セイヨウワサビより沢ワサビの使用量が多ければ『おろし本わさび』、その反対が『おろしわさび』と表示される。業界では沢ワサビ50%以上を「本わさび使用」、50%未満は「本わさび入り」と表示する事で統一しているそうだが、紛らわしい表示に消費者は困惑する。明石駅ビルにある蕎麦屋でザルソバを注文したら、筑盛りソバとつけ汁と一緒に生山葵一本がついて来る。何か贅沢な設えのようだが、客が擦りおろして薬味に使う。何の事は無い店側の手抜き補填である。

大輪田塾だより

漁船法と漁船保険について

5月の大輪田塾は27日(火)に「漁船法概要」と「漁船保険概要」の2課題を開講しました。

「漁船法概要」は県水産課 峰 浩司主査が講義を行いました。漁船法の成り立ちや、船の長さや大きさの測り方、登録についてしっかりと学ぶことが出来ました。

続く「漁船保険概要」では兵庫県内海漁船保険組合 沢 辺 義典専務理事が講義を行いました。漁船保険の歴史や仕組みのほか、全国一元化についての動きなど幅広い内容で講義がなされ、どちらの講義後も多くの質問が塾生から出されました。



漁船の高さ、幅、長さの基準が分かるように工夫された模型



沢辺専務の講義



漁船法の講義では模型を使い理解を深めた

6月の大輪田塾

10日 漁業法概要

(水産会館)

24日

JF兵庫漁連の魚食普及事業
気象について

(水産会館)